

パプアニューギニア国防軍・軍楽隊の自衛隊音楽まつり参加への壮行会

伊藤 明德（協会 ポートモレスビー支部長）

日本・パプアニューギニア協会は、日本防衛省・自衛隊と JICA と協力しながら PNG 国防軍・軍楽隊を立ち上げから支援してきました。2021年9月29日には、協会会員の田中富久子氏と故堀江正夫氏の寄付を元に協会が準備した PNG 軍楽隊の演奏服を PNG 国防軍へ供与しました。

演奏服は PNG カラーを基調とした赤、黄色、黒で作られており、供与式典の席では、お祝いの挨拶に加えて「日本で軍楽隊にお目に掛かるのを楽しみにしています。」という田中氏のメッセージを紹介しました。軍楽隊のメンバーも日本で演奏する機会を大変楽しみにしていました。そして、今年、PNG 軍楽隊へ 11月17日と18日に日本武道館で開催される自衛隊音楽まつりへの招待が決まりました。

これまで軍楽隊は吹奏楽のように、座って動きのない演奏が中心でした。しかし、自衛隊音楽まつりは、歩きながら楽器を演奏し、音楽の演奏と動きの調和を大切にし観客を魅了するマーチングです。演奏技術に加えて編成を組み歩き動きを加える高いレベルが要求される演奏となります。桜井政友日本防衛省代表からは、連日、猛烈な暑さの中、陸上自衛隊中央音楽隊の指導の下、厳しい訓練を重ねていることを聞いていました。

そして準備の整った11月2日に演奏服を着てのリハー

サルを兼ねた壮行会がポートモレスビー PNG 国防軍本部で開催されました。壮行会にはパプアニューギニア国防軍司令官 マーク・ゴイナ少将 (Commander of Defense Force)、丸尾伸一在 PNG 日本大使館次席、横田隆浩 JICAPNG 事務所次長らが参加し、供与された美しい演奏服を身に付けた軍楽隊のマーチング演奏を鑑賞しました。演奏は練習の成果が花開き、息の合った数々のフォーメーションが繰り広げられました。



演奏曲には我々日本人の心を揺さぶる「童謡ふるさと」もあり演奏と動きに魅了されました。丸尾次席からは、日本での活躍と「軍楽隊の演奏が日本と PNG の友好のシンボルです。」というお祝いとお言葉の言葉を頂きました。

自衛隊まつりは、寒い東京での開催です。軍楽隊のメンバーが隊長を整えて練習の成果を発揮し、PNG カラーの演奏服の軍楽隊が日本の皆さまを魅了することを楽しみにしています。



近況：ソゲリで深まる民間レベルの日パ関係

石井 靖也（仙台育英 & ソゲリ日本語学習センター（JLC）所長（開発学博士））

ソゲリでは2017年に学校法人仙台育英学園が寄贈した日本語学習センター（JLC）を拠点とした民間レベルの日本パプアニューギニア関係が深まりを見せています。今年の3大プロジェクトをマンゴの季節を迎えた現地より報告させていただきます。

まず、今年7月、ソゲリ国立高校で開催された日本語能力試験（JLPT）においてこの国史上初となる合格認定を3名が受けました。合格者はJLCの2年コースを履修中のベンシスロス・エドモンド君、日本の大学で学んだロジャー・マウエおよびトニー・オンボの両氏でした。エドモンド君はJLCの生徒、マウエ氏はJLCのアシスタント、オンボ氏は講師という組み合わせも将来性を感じさせます。合格者は次のレベルの合格を目指し日本語に磨きをかけます。今年で2回目となるJLPTが無事実施できたのはポートモレスビー在住の邦人ボランティアの支えのお陰でありこの場をお借りして感謝申し上げます。

また、JLCは6月から10月にかけて兵庫県立宝塚西高等学校との文化交流を実施、宝塚西の生徒から同校文化祭で披露された演劇『リトルマーメイド』の動画やたくさんの折り紙作品をもらい日本文化を堪能しました。

日本パプアニューギニア協会副会長の及川正博立命館大学名誉教授（文学博士）には交流の中心となった演劇の感想文について監修して頂きました。深く感謝申し上げます。

仙台ロータリークラブ（現会長：加藤雄彦学校法人仙台育英学園理事長）が2019年から当地のボロコロタリークラブと共同で取り組んできたソゲリ・イアロワリ水供給リハビリプロジェクトが今年6月、暫定的に竣工しました。竣工式には渡邊信之日本大使もご列席されました。ソゲリ村6千人の人びとへの水供給サービスを日パ両国の民間セクターのパートナーシップが当地のパブリックセクターを後押しする新しい形の国際協力を完成させつつあります。

最後に再び日本語の話題に戻ります。今年9月19日に『パプアニューギニアの日本語教育：40年の軌跡とその意義』がアマゾン出版から発売されました。1980年に始まった日本語教育の火が今なおソゲリで燃え続けていることに対する称賛のコメントも見えます。この国で日本語教育に従事された諸先生方の回想録ですが、貴重な経験が紹介されており、現役で日本語サービスを提供しているJLCへのエールとして受け止めています。皆様も是非ご一読ください。



PNGで初となる日本語能力試験N5の認定証を受けたベンシスロス・エドモンド君



仙台ロータリークラブと地元ボロコロタリークラブが建設した8万リットル貯水タンク



新設の蛇口から出る水で手を洗うソゲリプライマリースクールの生徒達



兵庫県立宝塚西高等学校の生徒から届いた数々の折り紙に感銘するJLCの生徒



宝塚西高等学校から送られた数々の折り紙作品



渡邊大使のご臨下6月22日に開催されたソゲリ水プロジェクト暫定竣工式（右から加藤雄彦会長、渡邊信之大使、ソゲリ国立高校フェリア校長、ラッセル・ジャクソンボロコロタリークラブ幹事）

渡邊 信之（駐 PNG 日本大使）

9月4日から6日にかけて、海上自衛隊令和4年度インド太平洋方面派遣の一環として護衛艦「きりさめ」がポートモレスビーに寄港しました。なお、PNGへの護衛艦来訪は昨年7月来のこととなります。寄港中には、当地在留邦人約40名及びPNG国防軍関係者約10名に対する艦内見学をそれぞれ実施しました。

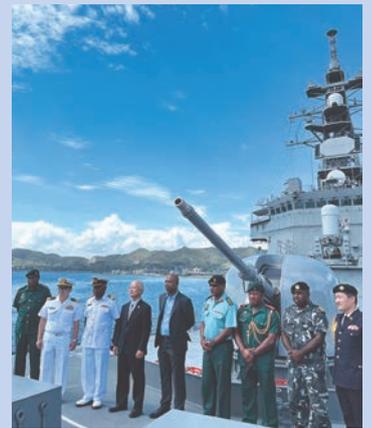
日本とPNGにおける本格的な防衛協力は2015年のPNG国防軍楽隊の創設に始まり、今日では工兵隊への能力構築支援も加わり協力分野は拡大しています。「自由で開かれたインド太平洋」ビジョンの維持・強化にとって要である太平洋島嶼国の中でも、最大規模のプレゼンスを有するPNGとの防衛面における多層的な協力関係の構築は、日本の同地域に対する積極的な姿勢を内外に示すという観点からも非常に意義深いものです。

見学時の艦上でのスピーチにおいて、「きりさめ」艦長の坂田2等海佐は、PNGと日本は歴史的関係や海洋国家という共通点を基に強固な友好関係を継続してきており、インド太平洋地域の平和及び繁栄の鍵は「自由で開かれた海洋」であるとの認識を共有する重要なパートナーとして引き続きPNGとの協力を推進していく、と述べました。また、PNG国防軍副

司令ポレワラ准将は、「きりさめ」の寄港はPNGを見守る同志がいることを示す好例であり、我々の自信を強めるものである、と述べました。

広大な海洋を国家領域として持つPNGは、限定的な海軍力しか保持していません。自国の海洋権益や、地域における航行の自由を確保することはPNGのみならず太平洋島嶼国全体としての課題です。今後の防衛交流として、日本で開催が予定されている西太平洋海軍シンポジウムに、メンバー国としてPNGは参加を予定しています。更に、防衛省主催の自衛隊音楽まつりが11月18、19日の日程で開催予定でありPNG軍楽隊はゲストバンドとして参加予定です。

このような様々な防衛協力を発展深化させていくことは防衛分野のみならず、日・PNG二国間関係におけるあらゆる分野での協力促進に資することが期待されています。



荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

2022年9月27日、安倍晋三元首相の国葬が行われることになり、急遽、パプアニューギニアのマラペ首相、マル経済海外投資大臣、East Sepikのバード知事など、PNGより12人の代表団が来日されました。首相は日本滞在が20時間という短い滞在で、国葬の会場から、そのまま次の訪問地であるニューヨークへ出発される為、成田へ旅立って行かれましたが、生前、パプアニューギニアに2度訪問して頂き、パプアの経済発展のためにご尽力を頂きました安倍首相に、マラペ首相そしてパプアニューギニア国家の弔意が十分届いたのではないかと思います。

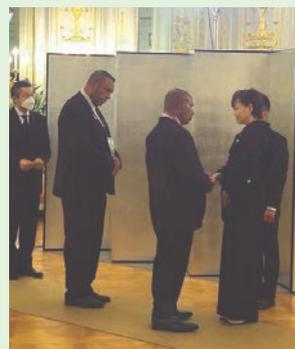
27日午前中は、岸田首相との首脳会談に出席され、その後は日本企業数社とミーティングをされ、午後は国葬出席と短い日程の中で精力的にスケジュールをこなされました。

国葬後に行われた、赤坂迎賓館での岸田首相と、安倍昭恵夫人からの返礼に関しましては、マル大臣とバード知事が首相の代理で出席され、安倍首相ご夫妻はEast Sepikへも訪問されたので、短い会話とはいえ、有意義な時間を過ごされました。

その間の合間を縫って、マル大臣は大使館を初訪問されたり、バード知事も初来日でしたので、東京タワーや増上寺を見学され、12人の代表団は慌ただしい中にも、東京を垣間見るほっとする瞬間もあったようです。

特にバード知事は日本をととてもお気に入りになり、桜の時期に是非また来日されたいとのことでした。

以下いくつか写真を掲載させていただきます。



山本元帥景仰会が運営する山本五十六記念館の展示室中央には、山本五十六長官が撃墜された際に搭乗していた一式陸上攻撃機の左翼を展示しており、ひとときわ目を引いています。

1972年、のちに『山本長官搭乗機里帰りプロジェクト』を牽引する当会会員が、独立前のパプアニューギニアにウィルヘルム峰登頂と戦跡巡礼に訪れたその帰り、ラバウルに立ち寄り、山本長官が最後に飛び立った西飛行機場を案内してくれた日本人スタッフから「ブーゲンビル島に山本長官の搭乗した飛行機の残骸が残っている」と聞いたことから歯車が大きく動き出しました。

長岡は過去、戊辰戦争と空襲の2度の戦禍を経験していることから、市民感情に十分配慮し、社会の動勢と時機を伺うこと12年。1984年、山本五十六生誕100年記念事業としてプロジェクトが立ち上がり、第1回の巡礼団が派遣されました。「ココポ村から墜落現場のジャングルまで、巨大な風倒木を乗り越え、山刀で切り払いながら歩くこと1時間半。傷跡生々しい機体と「日の丸」がくっきり鮮やかな左翼を発見。山本元帥殉難の無念と心情を偲ぶと、熱い涙を抑えることができなかつた。現場にたたくみ、万感が胸に迫る思いで黙とうを捧げた。」と現場の様子を記録しています。

その後も、パプアニューギニア国日本大使の野村忠策氏が親交を持つ同国の政府要人とのつながりのもと、現地との交流を重ね、数々の試練を乗り越え、ベオナ文化観光大臣の許可を得て、1988年4月2日、ついに左翼部分の長岡への里帰りが実現しました。この大プロジェクトの成功を転機

に、1999年、元帥の命日である4月18日に『山本五十六記念館』は開館しました。

山本五十六は当地新潟県長岡市出身で、連合艦隊司令長官として真珠湾攻撃を指揮しましたが、その背景には当時の日本と米国の国力の違いから開戦に反対しながらも、軍人として実践指揮をとらなければならない苦悩がありました。当館では市内小中学生の入館を無料にしていますが、これは、郷土長岡への深い思いや世界の趨勢に目を向けて国の平和を希求していた山本五十六の精神性を、青少年に伝えたいという主旨で行っています。この精神性は、山本五十六の生い立ち、国力の差を目の当たりにした米国駐在、開戦回避の思いで臨んだ軍縮会議出席と三国同盟反対など、史実と数々の書簡などの展示からうかがい知ることができます。

開館から23年、今では毎年2万人のご来館をいただき、間もなく累計50万人を迎えようとしています。山本元帥が散華されてから来年で80年が経ちますが、その精神性は薄れることなく、今なお多くの皆様から共感をいただいております。

混沌とした世界情勢や先への不安が広がる中、記念館では誠意と慈愛の人・山本五十六を紹介しながら、その精神性と平和の尊さを発信し、次代を担う子ども達への平和教育並びに地域貢献に将来にわたって取り組んでまいります。

パプアニューギニア国との交流、並びにこの度当会を紹介する機会を頂戴しましたことに深く感謝申し上げます。皆様、新潟にお越しの際は、是非、山本五十六記念館にお立ち寄りください。



山本五十六
(1884-1943)



ジャングルで見つかった
山本長官搭乗機



記念館で展示している
搭乗機の左翼部分



日本三大花火の長岡大花火大会
写真は「復興祈願花火フェニックス」

事務局からのお知らせ

ごらくちょう77号の発行が遅れまして誠に申し訳ございませんでした。

PNGからPNG国防軍楽隊が11月9日に来日し、協会も出発前から諸々御協力させていただいております。

伊藤支部長のレポートにもありますとおり、11月18日、19日には素晴らしい演奏とパフォーマンスが期待できます。次号のごらくちょうで大きくレポート

できると思います。TVの取材も多く入るようです。ニュース等にご注目ください。

PNG国防軍楽隊の皆さんは到着後すぐに朝霞駐屯地内にいて陸上自衛隊中央音楽隊の皆さんの激しい演奏とマーチングの指導を受けています。筆者も見学をさせていただきましたが、陸上自衛隊中央音楽隊の隊員の指導と、それに必至についていくPNG軍楽隊の皆さんの姿は感動を受けるものがありました。初めての日本でなかなかの珍道中もあるようで、とにかく皆さん元気で無事演奏を終えて良い思い出を作ってもらえることを願っております。

また当協会の田中富久子様、故堀江正夫様そして協会が協力して贈呈しましたPNG軍楽隊の演奏服が本番では観客の皆様を魅了することは間違いありません。本事業に協会は当初からお手伝いをさせていただいており、自衛隊音楽まつりの成功とPNG軍楽隊の素晴らしい演奏、パフォーマンスを心よりお祈りしております。

第8波が広がりつつありますが、年明けにはTOKTOK会などの開催を計画致しております。来年に向けて普通の活動に少しづつ戻して参りますので、引き続き協会活動への御理解とご協力を願いたします。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：23社 ◆ 個人会員：109名 (2022年10月31日現在)

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン株式会社
事務局 TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方ぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員6,000円 家族会員3,000円 法人会員60,000円 学生、PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ